

【八学光星―黒石・黒石商】初回八学光星1死一、二塁、織笠陽多が左中間二塁打を放ち6―0とする―長根



# 光星 同郷バッテリー活躍

○：部員147人の八学光星の3回戦では、地元出身の太田優と織笠陽多がバッテリーを組んだ。太田は140球前後の直球にスライダーなどの変化球を制球よく投げ込み、2回5三振無失点。織笠は初回に左中間を破る2点二塁打を放ち、女房役としても存在感を発揮した。

太田と織笠は六戸町の太曲小一七中卒で、中学時代は同じ三沢市内のシニアチームに所属。一足先に光星に進んだ太田を追い「先輩とバッテリーが組みたかった」と織笠も同校に進んだ。

共にメンバー入りを果たして迎えた今夏、2人の出番は同じタイミングでやって来た。19日の練習中に2人がスタメンとなることが伝えられ、「どう抑えるか、2人で話し合った」。

3回戦では、そろって序盤に試合の流れを引き寄せる活躍を見た。太田は「自分の役割を果たし、優勝に貢献したい」と力を込めた。織笠は初回に自らの走塁ミスでチャンスをつぶしたこともあり「プレーに甘さがあった」と反省していた。

第103回 全国高校野球選手権  
青森大会

八学光星 6 0 0 0 0 5 | 11  
黒石・黒石商 0 0 0 0 0 0 | 0  
(6回コールド)

(八) 太田、小室、横山―織笠  
(黒) 工藤、小枝―松岡  
▷三塁打 石倉(八) ▷二塁打 吉村、織笠  
2、佐藤、中江(八) ▷暴投 工藤(黒)  
▷試合時間 1時間39分  
(球審―大森、塁審―松橋、権谷、石田)

【評】八学光星が13安打11点で大勝。初回は吉村、石倉、須藤、織笠の4連打など打者11人で6点を先制し、勢いに乗った。守っては3投手の継投で2安打14三振で零封した。黒石・黒石商は五回に四球と敵失で1死一、三塁の好機をつかんだが、生かせなかった。

黒石・黒石商・柿崎央主将(連合チームの敗戦)「まとまりのないチームだったが、練習を重ねて夏はチーム一丸で戦うことができた」